

# 貴重な一票を無駄にしない 私たちの暮らしのために 私たちができること

## REPORTER'S EYE



生徒さんたちは、選挙に対してとても良い印象を持ったようです。この経験が大人になって生かされるといいですね。

問い合わせ選挙管理委員会へ内線6061



【リポーター】

原麻美幸さん(堀兼在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがレポートします。

選挙が近くなると選挙管理委員会から投票所入場整理券(はがき)が郵送されます。私も投票日には投票所に行き、大切な一票を投じてきました。この投票所入場整理券に記載されている選挙管理委員会とは、どんな部署か皆さんご存じですか？今回は、選挙に関する具体的な事務を行っている選挙管理委員会事務局を訪ね、内河事務局長にお話を伺いました。

選挙管理委員会の主な仕事は、国會議員を選ぶ国政選挙や県市の地方選挙を始め、農業委員会委員選挙、土地改良区総代の選挙などが正しく迅速に行われるようにすることです。選挙があるときは、全ての作業を短時間で行ううえに、投票・開票に関

しては絶対に間違いが許されないという状況の中で、心身ともに大変な努力を必要とするのだそうです。  
ところが投票率という点では、全般的に低下傾向にあるとのこと  
で、選挙管理委員会では投票率を上げるためにさまざまな工夫を、有権者の立場に立つて行っています。不在者投票の場所を市役所6階から1階のエントランスホールに移設したことはその一例といえます。さらに、選挙のないときでも選挙啓発に力を入れており、投票率の向上につながるよう、一票の大切さ、棄権防止を呼びかけているのだそうです。  
その啓発活動の一つとして出張出前選挙管理委員会があります。これは、実際の選挙で使用する記載台、投票箱を中学校の生徒会の役員選挙に役立ててもらい、数年後には必ず有権者になる子どもたちに、選挙の仕組みと重要性を認識してもらうのが目的で昨年からは実施しているのだそうです。そこで、10月27日に入間野中学校で行われた生徒会役員選挙に私も同行させていただきました。

体育館で行われた選挙では、立候補者の立会演説会に先立ち、事務局局長から一票の大切さや選挙制度についての講話があり、真剣な面持ちで聞き入っている生徒たちの姿はとても印象的でした。その後、投票用紙が配られ、投票が始まると、我先にと元氣よく投票に臨みました。投票の終わった生徒たちは「早く20歳になって本当の選挙に行きたい。」選挙の仕組みや大切さが良く分かった。「公民の勉強にもなつて良かった。」などと感想を述べていました。このような活動は、中学校に限らずこれからも積極的にやりたいのとこのことです。  
事務局局長はまた「国政選挙であっても地方選挙でも、20歳代の投票率が一番低いんです。中学生のうちから選挙の重要性が分かってもらえれば、20歳になってから必ず選挙に行くと思います。選挙は私たちの現在や将来の生活についての意見や思いを政治に反映させる有効な手段です。私たちの暮らしをよくするために一人一人が政治に対する意識を持ち、関心を深めて欲しいと思います。」と話していました。  
私も今回の生徒会役員選挙に同行してみても、どちらかというと固いイメージだった選挙管理委員会が、とても身近に感じられるようになりました。そして、選挙の重要性、一票の重みを再認識できました。皆さんも貴重な一票を無駄にしないようにしてくださいね。